



鳥森小学校



学校だより 11 月号

令和7年 10月 31日発行

153-0051

目黒区上目黒 3-37-27

TEL 03-3719-1794

FAX 03-3719-2857

校長 丸山 智子

鳥森小 HP



心ゆたかで思いやりがある子 よく考えて進んで行動する子 からだも心もじょうぶな子

運動会と「無用の用」

副校長 水村 考良

先日の運動会は雨で順延となりましたが、平日にも関わらず多くの保護者の皆様に応援をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちは、これまでの練習の成果を発揮し、懸命に走り、踊り、仲間を応援し、声を掛け合う姿を見せてくれました。その姿は、結果以上に心を打つものでした。

先月、ノーベル化学賞を受賞された京都大学の北川進先生は、記者会見の中で、「私はずっと“無用の用”を信じてきた」と語っておられました。「無用の用」とは、中国の古典『莊子』に登場する言葉で、「一見役に立たないように見えることにこそ、真の価値がある」という意味をもっています。すぐに成果につながらないことでも、積み重ねが後に大きな力となる——この考え方は、まさに教育にも通じるものです。

運動会の中にも、「無用の用」はたくさんありました。速く走れるように頑張っても、一着が取れないこともあります。全員でダンスを上手に踊れても、成果として得点が入る訳ではありません。しかし、できるだけ早く走るために練習したり、工夫したりすることや、ダンスで踊れるように何度も練習したり、友だちとタイミングを合わせたりすること……それらの過程の中にこそ、目標に向かって努力する力や仲間と協力する力や、最後まであきらめず粘り強く取り組む力などが育まれています。結果ではなく、そこに至るまでの過程の中での意欲や努力、協力などの一つひとつが、子どもたちの成長に欠かせない大切な「用」なのです。

同じように、日常の学校生活にも「無用の用」がたくさんあります。先生や友だちの話をしっかりと聞いて活動すること、給食の時間に仲良く会食すること、掃除の時間にごみを拾うこと、係の仕事を最後までやり遂げること——どれも大きな成果ではありません。しかし、そうした小さな積み重ねが、社会で生きる力の基礎的な力＝「非認知能力」となっていきます。努力を続ける力、感情をコントロールする力、他者と協働する力——これらはテストの点数や数値では測れませんが、社会の中でしなやかに生き抜くための土台となります。運動会でのがんばりや協力、日々の学校生活の丁寧な積み重ねが、子どもたちの非認知能力を確実に育てています。

このような力を育むためには、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、子どもたちを支えて行くことが大切だと考えています。ご家庭におかれましても、成果や結果だけにとらわれず、子どもたちが時間をかけて育てている「非認知能力」に目を向け、温かく励ましていただければ幸いです。